

## 瀬戸内海とピアノの3月

いきいきと三月生る雲の奥

飯田龍太

春の光が雲の奥に生まれて、活動的な3月が現れてきた喜びを詠った句です。草木が芽を出し、虫が地上へはい出る3月は、生命の息吹を感じます。そして、今年はいつものにも増して意義深い月になりそうです。

昭和9年3月16日、瀬戸内海が、雲仙、霧島とともに日本で最初の国立公園として指定されました。その時の公園区域は、岡山県と香川県の間いわゆる備讃瀬戸の地域。そして、その中心の一つが屋島の存在であり、屋島から見た多島美の眺望であったということです。それからちょうど80周年を迎えることを記念して、キックオフイベントが、3月16日の当日、寒霞渓、鷺羽山とともに屋島山上で開催されることになっています。We Love Yashima 宣伝隊長の松本明子さんや探検隊長の荒俣宏さんも参加して、大いに盛り上げてくれそうです。

その少し前、3月12日には、4年ごとに開催される第3回高松国際ピアノコンクール（TIPC）が開幕します。予備審査で選ばれた40人の有望な若手ピアニストが、国内外から高松の地に集結し、ピアノ演奏の技量と芸術性の高さを競い合います。「TAKAMATSU」の名を、世界中の音楽ファンに知らしめることのできるこのコンクール。創造都市高松のさらなる発展のためにも成功させ、継続開催に繋げて行くことが大切です。

TIPCでは、毎回、風光明媚な香川、高松をイメージした委嘱作品を創作しています。第1回の曲は「屋島」、第2回は「栗林公園」でした。そして今回は、国立公園指定80周年を記念して「瀬戸内海」をテーマに、新進気鋭の作曲家である藪田翔一さんに委嘱しています。「世界の宝石」とも称される瀬戸内海の魅力を存分に表現した素晴らしい楽曲が出来上がっていると伺っています。どんな曲なのか、また、出場者がどのような演奏をするのか、本当に楽しみです。

春の海ひねもすのたりのたりかな

与謝蕪村

私が瀬戸内海をイメージして曲を作るなら、この句の世界。静明なるアダージョのピアノ曲でしょうか。